

ジャイナ教における布薩の概念

——シュラーヴァカ・アーチャーラ文献の記述を中心として——

堀 田 和 義

はじめに

仏教などと同様にジャイナ教でも古くから行われてきた布薩に関しては、在家信者の行動規則を扱ったシュラーヴァカ・アーチャーラ文献に詳しい。この分野の研究としては Williams [1963] が最も優れているが、膨大な情報を簡潔な一冊の本にまとめたものであり、その記述にはいくぶん簡略な面が見られる。今後はこの研究を出発点として、各項目の詳細の研究を進める必要があるだろう。

本稿では、シュラーヴァカ・アーチャーラ文献における布薩の位置付け¹⁾、布薩の原語に関わる問題点、布薩の規定を取り上げるが、布薩の規定に関しては、紙幅の都合上、目的と日程に限定して検討する。文献は、比較的容易に入手できる ŚĀS 所収のものを中心とし、他の信頼できる刊本を入手できたものに関しては、そちらを参照した。

1. シュラーヴァカ・アーチャーラ文献における布薩の位置付け

シュラーヴァカ・アーチャーラ文献を大別すると、11 階梯 (pratimā) を大枠とし、第 2 階梯を論じる際に 12 誓戒に言及するもの 〈1〉²⁾、三宝を大枠とし、正行を論じる際に 12 誓戒に言及するもの 〈2〉³⁾、三宝を大枠とし、正行に 11 階梯を組み込んで、第 2 階梯を論じる際に 12 誓戒に言及するもの 〈3〉⁴⁾、12 誓戒に言及するが、それを包括するような大枠が認められないもの 〈4〉⁵⁾、他の文献とは体系が大きく異なるもの 〈5〉⁶⁾ という 5 種類がある。

文献ごとに大枠は異なるが、〈5〉を除けば、5 つの小誓戒 (aṇuvrata)、3 つの徳戒 (guṇavrata)、4 つの学習戒 (śikṣāvratā) という合計 12 の誓戒に言及する点ではほぼ一致しており、布薩は学習戒の 2 番目か 3 番目に含まれるのが一般的である。また、布薩は 11 階梯⁷⁾ の一つとしても言及される。実践内容は、誓戒の場合とほぼ同じであるが、違反行為 (aticāra) を前提としないため、誓戒の場合よりも

厳しいものと考えられる⁸⁾。

2. 布薩の原語に関わる問題点

プラークリット語形としては、サンスクリット語の *upavasatha* に由来する *posaha* が一般的であるが、シュラーヴァカ・アーチャーラ文献では語源を誤って、*pausaḍha*, *proṣadha*, *poṣadha* という3つの語形が現れた。これらの語形を考察するにあたっては、様々な問題が考えられる。例えば、ŚĀS ではすべて *proṣadha* で統一されている。*proṣadha* という語形が空衣派に特徴的なものであると捉えることもできるが、意図的に統一された可能性もないとは言えない。このように考えると、たとえ同じ文献でも個々の写本・刊本レベルで原語が異なる可能性もあり、明確に語源解釈が提示されているような場合を除くと⁹⁾、原語の確定は非常に困難であろう。

3. 布薩の規定

目的に言及しない文献は多いが、PASU は「日々、身につけたサーマーイカ行の潜在力を確固たるものにするため」と述べる¹⁰⁾。同様のものとしては SDhA, Śr (M) などがあり¹¹⁾、サーマーイカ行との密接な関連が窺い知れる¹²⁾。

その他にも Śr (PP) は「幸福のため」と述べ、BhDhU は、業の抑止・消滅等を経て解脱へ到るとする¹³⁾。先の PASU でも、サーマーイカ行は「カテゴリーの認識の根源」とされるため、解脱へと繋がる点は同様であろう。

以上のことから、布薩の目的は、サーマーイカ行の補助やその先の業の抑止・消滅、解脱にあると言える。

日程に関しては¹⁴⁾、8日目と14日目というものが最も多い¹⁵⁾。これらは、半月の8日目と14日目を指すと考えられ、一ヶ月に計4回となる。これら以外の日程も挙げる文献には、5日目 (Śr (PP)) や、*pākṣiki* (任意の日?)、*nandīśvara* の日を加えたもの (RM) があり¹⁶⁾、LS, DhB のように具体的に記さないものもある¹⁷⁾。

また、具体的な数字を含まないが、同じ日程を指す「節目 (*parvan*)」という語を用いる文献も多い。なかでも、「4つの節目」という表現が最も多いが¹⁸⁾、この場合も、各半月の8日目と14日目を合わせた計4回と考えられる。KA は「2つの節目」と述べるが¹⁹⁾、これも後の記述から8日目と14日目であることが明らかとなる²⁰⁾。他にも、数を記さずに「節目」とだけ述べるものがあるが、こ

れらも特別な根拠がない限りは、同様に考えるべきであろう²¹⁾。

その一方で、「節目」という語を違った意味で用いているものもある。RK では、「節目と 8 日目」と述べるが²²⁾、この場合の「節目」は後の記述から、14 日目を指すことが分かる²³⁾。このように、同じ文献内でも、同じ語を異なった意味で用いている点には注意が必要である。

むすび

以上、シュラーヴァカ・アーチャーラ文献における布薩の位置付け、布薩の原語に関わる問題点、布薩の規定について検討してきたが、とりわけ布薩の原語の問題に関しては、今後、より多くの資料を収集したうえで、改めて検討すべき課題であると思われる。

また、布薩の規定のうち、期間、場所、実践内容、違反行為等については、紙幅の都合上、検討することができなかった。これらの内容に関しては他日を期したい。

-
- 1) 布薩の原語には様々なものがあるが、本稿では、それらすべてをまとめて「布薩」と呼ぶ。 2) KA, CP (ただし, deśavirata と呼ぶ), CS, Doha, PAA, BhDhU, BhS (V), Śr (M), Śr (S), Śr (V) (ただし, 布薩を誓戒に含めず), SDhA, LS. 3) PASU, Śr (A), Śr (U), Śr (PN), Śr (PP), Śr (B), Śr (VS), YTC, RK. これらのうち, PASU, Śr (U), Śr (PP), Śr (VS), Śr (PN) は、別個に 11 階梯に言及しない。 4) Śr (G) (ただし, 布薩を誓戒に含めず)。 5) DVU, P, PC, BhS (D), Śr (AD), RM, VC, HP. ただし P, DVU, BhS (D) は別個に 11 階梯に言及しない。 6) MP, RS. 7) RKT on RK 5.15. では、出家修行者のように、徳位 (guṇasthāna) と呼ばれる。徳位については、Glaserapp [1942] pp.75-92.; 藤永 [2001] p.41, 1.5-p.43, 1.1. 等を参照。 8) *Uvāsagadasāo* において、アーナンダらの在家信者は、家督を息子に相続するなどした後に、家を出て布薩堂に入って 11 階梯を実践する。このことから、11 階梯は 12 誓戒よりも一段階上のものと言える。河崎 [2003] p.132 等を参照。 9) 例えば, poṣaṃ dhatte poṣadho 'ṣṭamīcaturdaśyādih parvadvivaṣaḥ DhBṬ on DhB 3.21. 10) PASU 151. 11) SDhA 5.34. ; Śr (M) 4.60. 12) サーマーイカ行については、Jaini [2000] 所収の論文 *Sāmāyika* 等を参照。 13) BhDhU 304-305. 14) CP, DVU, PC, RS, Śr (AD) は日程に言及しない。 15) PAA, BhDhU, Śr (B), Śr (M), Śr (S), Śr (VS). これらのうち, PAA と Śr (M) は、日程だけでなく、月 4 回である点も併記する。 16) RM は、実践内容も他と大きく異なる。 17) LS 5.197. ; DhBṬ on DhB 3.21. 18) BhS (V), Śr (PN), Śr (A), Śr (U), Śr (G), Śr (V), SDhA, YTC, VC. これらのなかでも、Śr (V) は、281 偈を読めば、8 日目、14 日目を指すことが明らかであり、また、BhS (V) は「各月の 8 日目をはじめとする 4 つの節目の日」と表現していて、より明

確である。 19) KA 359. 20) KA 373. また, PASU は “pakṣārdhayor dvayor” と述べるが, これも同様に解することができる。 21) CS は単数形, Doha, P, HP は複数形で記す。 BhS (D) は単数形であるが, “pavve pavve” の形で記し, 複数であることを予期させる。 22) RK 106. 23) RK 140. RKT は, 8 日目, 14 日目をメインとして, 他の日を任意のものとしており, 先述の LS や DhB などと同様の見解となる。

〈略号表〉

紙幅の都合上, 刊本に関する情報の詳細は省略した

KA Kārttikeya: *Dvādaśānupreṣā*. CP Kundakunda: *Cāritraprābhṛta*. CS Cāmuṇḍarāya: *Cāritrasāra* → ŚĀS 1. T (U) Umāsvāti: *Tattvārthasūtra*. T (P) Pūjyapāda: *Sarvārthasiddhi*. Doha *Sāvayadhammadohā* → ŚĀS 1. DVU *Deśavratodyotana* → ŚĀS 3. DhB Haribhadra: *Dharmabindu*. DhBṬ Muncandra: *Dharmabinduṭikā*. P Padmanandi: *Padmanandipañcaviṃśatikā*. → ŚĀS 3. PAA Govinda: *Puruṣārthānuśāsana* → ŚĀS 3. PASU Amṛtacandra: *Puruṣārthasiddhyupāya*. PC *Padmacarita* → ŚĀS 3. BhDhU Jinadeva: *Bhavyadharmopadeśopāsakādhyayana* → ŚĀS 3. BhS (D) Devasena: *Prākṛtabhāvasamgraha* → ŚĀS 3. BhS (V) Vāmadeva: *Samskṛtabhāvasamgraha* → ŚĀS 3. MP *Mahāpurāṇa* → ŚĀS 1. ŚĀS 1 *Śrāvakācārasamgraha* vol.1. ŚĀS 2 *Śrāvakācārasamgraha* vol.2. ŚĀS 3 *Śrāvakācārasamgraha* vol.3. Śr (A) Amitagati: *Amitagatiśrāvakācāra* → ŚĀS 1. Śr (AD) Abhradeva: *Vratodyotanaśrāvakācāra* → ŚĀS 3. Śr (B) Brahmanemidatta: *Dharmopadeśapīyūṣavarsaśrāvakācāra* → ŚĀS 2. Śr (U) Umāsvāmiśrāvakācāra → ŚĀS 3. Śr (G) Guṇabhūṣaṇa: *Guṇabhūṣaṇaśrāvakācāra* → ŚĀS 2. Śr (PN) Padmanandi: *Śrāvakācārasāroddhāra* → ŚĀS 3. Śr (PP) Pūjyapāda: *Śrīpūjyapādaśrāvakācāra* → ŚĀS 3. Śr (M) Medhāvin: *Dharmasamgrahaśrāvakācāra* → ŚĀS 2. Śr (S) Sakalakīrti: *Praśnottaraśrāvakācāra* → ŚĀS 2. Śr (V) Vasunandi: *Vasunandiśrāvakācāra*. Śr (VS) *Vratasāraśrāvakācāra* → ŚĀS 3. SDhA Āśādhara: *Sāgāradharmāmṛta*. YTC Somadeva: *Yaśastilakacampū*. RK Samantabhadra: *Ratnakaraṇḍaśrāvakācāra*. RKT Prabhācandra: *Ratnakaraṇḍaśrāvakācāraṭikā* → RK. RM Śivakoṭi: *Ratnamālā* → ŚĀS 3. RS Kundakunda: *Rayaṇasāra* → ŚĀS 3. LS Rājamalla: *Lāṭīsamhitā*. VC *Varāṅgacarita* → ŚĀS 3. HP Jinasena: *Harivaṃśapurāṇa*.

※本稿で使用したテキストを入手するにあたっては, 都城工業高等専門学校の藤永伸先生に大変お世話になった。ここに記して感謝申し上げたい。

〈参考文献〉

河崎豊 [2003]

「白衣派ジャイナ教聖典に現れる在家信者に関する記述についての基礎的研究」(大阪大学提出課程博士論文)。

藤永伸 [2001]

『ジャイナ教の一切知者論』, 平楽寺書店 (京都)。

Glasenapp, H. V. [1942]

“*The Doctrine of Karman in Jain Philosophy*” (tr. by G. Barry Gifford), The Trustees, Bai

(234) ジャイナ教における布薩の概念 (堀 田)

Vijibai Jivanlal Panalal Charity Fund, Bombay.

Jaini, P. S. [2000]

“*Collected Papers on Jaina Studies*”, Motilal Banarsidass Publishers, Delhi.

Williams, R. [1963]

Jaina Yoga: A Survey of the Mediaeval Śrāvakācāras, (London Oriental Series 14), Oxford University Press, London.

〈キーワード〉 布薩, シュラーヴァカ・アーチャーラ文献, 在家信者, 学習戒
(東京大学大学院グローバル COE 特任研究員)

掲載されなかった諸氏の発表題目 (4)

アパーム・ナパート「水たちの孫」再考

後藤 敏文 (東北大学大学院教授)

‘kāvyanirṇaya’ の文意

島田 外志夫 (昭和音楽大学名誉教授)

ジャイナ教のマンドラは何を表しているか

矢島 道彦 (鶴見大学短期大学部教授)